

海の幸を育む山に緑を

山形県鮎商生活衛生同業組合



団体紹介

すし業界の発展を図ることを目的とし、昭和43年に設立。現在県下に11支部をもち、組合員が加盟している、山形県内のすし商経営者の団体です。



活動内容

10年ほど前、日本海沿岸の松くい虫や塩害被害に心を痛めたのがきっかけでした。ちょうどその頃、栄養の抱負に富んだ山からの川の水や伏流水が、米や魚介類に沢山の栄養を与えていることも知り、すし屋にとって近海の魚介類がおいしくなることは、後世に残せる大きな遺産と思い、県や地元森林組合、地元小学生の協力を得て、各地、これまでで2,900本の植樹、補植、下刈の活動を行っています。



活動の感想

地道な活動ですが、「海の幸」の保護育成はもちろんのこと、世界中で地球温暖化の問題が深刻な現在、二酸化炭素削減に少しでも繋がればと思います。今回も平成14年度に第1回目として植樹を行った遊佐町吹浦西楯地区の下刈りと補植を行いました。雨の中の作業となりましたが、木々の成長を見ると共に植樹をした時のことを思い出し、感慨深いものとなりました。今後も森や海に感謝するとともに、後世に緑豊かな自然を残していけたらと思います。

